助成者	思沁夫	活動期間	2016年4月～2018年3月
所属機関	大阪大学グローバルコラボレーションセンター	職　名	特任准教授

モンゴルにおけるサイレージ技術の導入を通じた自然災害への地域適応力の向上および防災・環境教育の普及、発展

【活動場所】モンゴル　ウブルハンガイ県オンギ川流域ツァガンボルガソ

【事業目的】 モンゴルの基盤産業は牧畜業であるが、年間降水量平均200㎜以下、1年の半分が－20℃以下という厳しい生態環境にあり自然災害の影響を受けやすい。本事業は、家畜の冬期用飼料の生産と貯蔵技術の導入を通じて遊牧民の自然災害に対する事前予防と適応能力を向上させるとともに、環境教育活動の実践と普及を目的とする。

家畜越冬用飼料貯蔵庫

柵の管理・修理

【活動内容】

①日本におけるサイレージ技術研修：兵庫県宍粟市と北海道帯広市で実施

②家畜越冬用飼料地への柵の設置：動物の侵入防止

③家畜越冬用飼料栽培地の設営：越冬用飼料栽培地を開墾して栽培開始

④飼料貯蔵庫の建築：越冬用の飼料貯蔵。サジの実の食品加工工場も兼ねる

⑤柵の管理・修理と設置範囲拡大：5ケ所の修繕及び希少植物生長保護柵設置

⑥環境教育：歴史的遺産と越冬用飼料の利用・保存に関するセミナー４回実施

【活動成果】

日本で学んだサイレージ技術は、現地でのサイレージの保存と加工に早速活かされた。家畜越冬用飼料の栽培と貯蔵も順調に進み、夏ごろには飼料の提供が可能となる見込である。飼料栽培地の設置は、自然災害の予防において重要な役割を担うことが期待できる。2年間の活動成果として、モンゴル現地組合の自立発展のための基盤構築と活動の継続性が確認できたこと、遊牧民や自治体をはじめとする地域とのネットワーク構築および連携強化、継続的な環境教育の実施が実現したことが挙げられる。